

ICID アジア地域作業部会における新たな取り組み

～ 気候変動に適応したかんがい排水分野の戦略策定に向けた検討 ～

2009年6月

全国農村振興技術連盟 委員長

太田信介

1. はじめに

会員の皆様には日頃から協会活動にご理解とご協力を賜り有難うございます。

昨年10月にパキスタンのラホールで開催された第59回国際執行理事会において、筆者は副会長に立候補し、日本 ICID 協会会員の皆様はじめ多くの方々のご支援をいただき、当選することができました。関係者の皆様に紙面をお借りして厚くお礼申しあげます。今後、ICIDの中で日本のプレゼンスが向上するよう努めていく決意です。

本稿では、アジア地域作業部会において筆者が中心となって進めている気候変動に適応したかんがい排水分野の戦略策定に向けた検討状況を報告します。

2. 新たな取り組みの背景

一昨年の IPCC 第4次評価報告書でも取り上げられているように、地球温暖化による気温の上昇や降雨パターンの変化が、農地・農業用水に影響するとともに、地域に適する農作物の品種の変化、生産量の不安定化などをもたらし、開発途上国の農業生産に大きな負の影響を与えることが懸念されています。

特に乾燥から湿潤まで広い範囲の気候帯が分布しているアジアでは、アジア北部、東アジア、南アジア及び大部分の東南アジアでは、夏季の降水量が増加する可能性が高く、逆に中央アジアでは減少する可能性が高いとされています。このようにアジアでは気候変動により多様な影響が発生するため、国・地域ごとのかんがい排水分野への影響とその適応策が求められています。

アジア地域部会では、2003年の第3回世界水フォーラム以降、アジアモンスーン地域の立場から、「かんがいの多様性と多面的機能」をテーマとして検討を進めてきました。第4回世界水フォーラム（2006年3月メキシコ）においてその成果を広く情報発信するなど、国際社会における「かんがいの多様性と多面的機能」に関する理解の向上に貢献しました。

我が国はその成功を受け、今後の課題としてアジアにおける気候変動への適応策の検討を提案し、部会内に「アジアにおける気候変動に適応したかんがい排水の戦略策定タスクフォース」が設けられました。筆者はその議長として、アジア各国との情報共有を積極的に進めています。

3. これまでの活動状況

タスクフォースは2008年の活動開始後、最初に、アジア各国のかんがい排水に関する現状の政策、気候変動による影響の具体的事例（かんがい分野）、気候変動に関する調査・研究の実績、気候変動への適応策、などについてアジア各国へのアンケート調査を実施しました。アジア地域部会メンバー各国の協力と農村振興局から派遣された大使館書記官や長期派遣専門家のご支援により、13カ国からアンケートの回答を得ることができ、その結果を取りまとめました。

これら活動の成果を、トルコ・イスタンブールで開催された第5回世界水フォーラムにおいて

披露し、広くタスクフォースの今後の活動への協力を呼びかけました。

具体的には、以下のセッションにおける議論に参加しました。

テーマ 1： 「地球規模の変化と危機管理 (Global Changes & Risk Management)」

トピック 1： 「水資源における気候変動への適応：気候変動の影響の理解、脆弱性の評価と適応方策 (Adapting to climate change in water resources: understanding the impacts of climate change, vulnerability assessments and adaptation measures)」

セッション 3： 「地域ごとの活動－地球温暖化や気候変動に対してどのように適応するか？ (Local Action – Thinking beyond the water box: What adaptation to global and climate change)」

内容の詳細は、本号で紹介していますので、そちらをご一読いただければ幸いです。

4. 今後の活動方針

これまでに、アジア各国で実施されている気候変動に対する取組みについて概略の整理を終え、次のステップとしては、具体的な事例を集め、活用しやすい形で整理していくこととしています。本タスクフォースでは、科学技術的な側面だけでなく、政策・制度、組織、社会、人々の関心など、より広い視点から気候変動に関する取り組みをとらえることを目指しています。

収集した様々な分野の情報を単なる事例の紹介にとどめず、どのような自然条件や社会経済状況のもとで個々の対応がなされたかを深く掘り下げ、何が他の地域や国に適用が可能なかを整理して示したいと考えています。言い換えれば、アジア地域の各国が今後、気候変動に関するかんがい排水分野の対策を検討する際に、有用なヒントとなるよう集積・分析された情報を「実用的な戦略」として示せるよう、タスクフォースの活動を進めていくこととしています。

具体的には、今年12月にニューデリーで開催されるタスクフォースの会議では、参加者と方針を共有するとともに、具体的事例の情報の掘り下げの作業分担を行う予定です。我が国からは、今後の作業の一つのイメージとして、農業農村工学会の「地球環境（地球温暖化）問題に関する研究推進小委員会」での検討状況を紹介し、議論を盛り上げたいと考えています。

その後も、2010年にイランで開催される第21回ICID総会、2012年3月にフランスで開催される第6回世界水フォーラムに向けて、日本の産官学の関係者やアジア地域作業部会のメンバーの協力を得つつ、ますます活発な活動を進めていく所存です。

5. むすびに

本タスクフォースの活動は、冒頭述べたとおり、ICIDの中で日本のプレゼンスを高める重要な柱の一つになるものと考えています。つきましては、ICID協会会員の皆様に積極的なご助言、ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

協会の活動全般に対しましても様々な形でのご支援を賜りますようお願い申し上げ、むすびと致します。